

医療や障害児教育研究紹介



座骨神経痛に関する模型などが並んだ展示会場

倉敷市立美術館で川崎医福大4年生

卒業制作展に意欲作300点

川崎医療福祉大(倉敷市松島)の医療福祉デザイン学科生による卒業制作展が、同市中央の市立美術館で開かれている。医療や障害児教育に貢献しようとする研究に取り組んだ学生の意欲作が並んでいる。28日まで。

「あっ! からはじまる問題発見」をテーマに、同学科の4年生23人がパネルや模型、冊子、映像の計300点を展示している。

新型コロナウイルス禍で運動不足による座骨神経痛になりやすい問題を取り上げた学生は、神経の位置を示された腰椎などの模型を制作し、予防や治療法を説明したパンフレットも作った。視覚障害がある子ども向けに開発された教材「もじこっと」は、野菜や動物の名前を示す点字が打たれ、触れる感覚を楽しむながら言葉を学べるよう工夫を凝らしている。

他にも、国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)の必要性を立体作品などで訴えたり、認知症について理解を深める漫画を制作したりと、バリエーション豊かな研究が紹介されている。

同展実行委の福田琢磨さん(22)は「コロナ禍の中だが、開催できてうれしい。医療福祉デザインについて多くの人に知ってもらいたい」と話す。

午前9時〜午後5時。入場無料。

(西平亮)